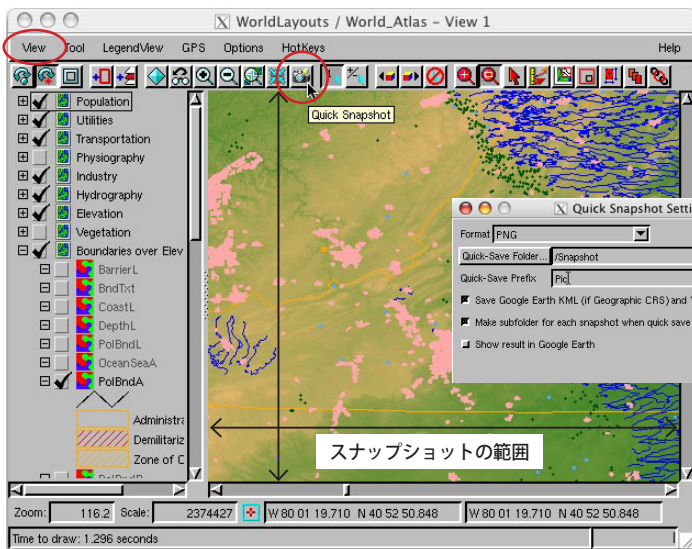


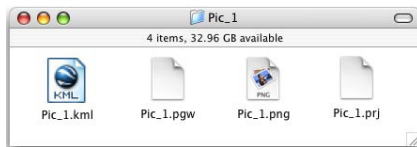
表示画面のクイックスナップショット



表示ウィンドウにある [クイックスナップショット (Quick Snapshot)] アイコンを使うと、

表示内容を 24bit カラーコンポジットラスタに保存できます。[クイックスナップショット] アイコンを初めて使用したときには、スナップショットを保存するフォルダ (既存または新規) とフォーマットを指定するよう促されます。外部フォーマットへ保存するときは、ジオリファレンスのためのファイル (*.kml、world ファイルおよび *.prj ファイル) を保存するかどうか選択できます。保存する場合、クイックスナップショットによって生成されるスナップショットとジオリファレンスファイル一式を含むサブフォルダを作るかどうか選択できます。ジオリファレンスを保存する場合、グループやレイアウトが Google Earth で歪んでしまう投影法にレンダリングする場合、状況を知

サブフォルダへ保存した時、フォルダとファイル名は指定された名前になります。



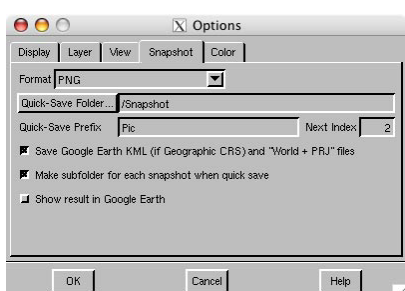
らせるメッセージが出て、KML ファイルが必要であれば対処方法が表示されます。(「TNTview: 緯経度表示の Google Earth での起動」および「他の表示方法の Google Earth での起動」(TNTview: Launch Google Earth with Lat/Lon View and Launch Google Earth with Any View) のカラープレートを参照)。2 度目にクイックスナップショットアイコンをクリックすると、自動的に同じ場所、同じフォーマットに保存されます。[表示 (View)] メニューの [スナップショットの別名保存 (Save Snapshot As)] では、保存するたびに新しいファイル名と保存先を要求されます。〈クイックスナップショットの設定 (Snapshot Settings)〉 ウィンドウで保存するスナップショットの接頭辞を最初に決めておくことができます。接頭辞はファイル名またはフォルダ名として使われ、順に番号が付けられます。各スナップショットは新しいファイルやフォルダに保存されます。スナップショットのピクセル数は表示キャンバスのピクセル数です。

ファイルのフォーマットは様々な種類から選択できます (右表)。そのうちの 8 種は TNT の内部ラスタオブジェクト (RVC フォーマット) で、1 つは非圧縮、残りの 7 種は異なる圧縮方法を使っています。座標参照系の情報は、内部のジオリファレンス・サブオブジェクトとして保存されます。外部フォーマットのラスタの座標情報は、〈クイックスナップショットの設定〉 ウィンドウの [(地理座標系であれば) ゲーグルアース用の KML ファイルと "World+PRJ" ファイルを保存します (Save Google Earth KML (if Geographic CRS) and "World + PRJ" files)] トグルボタンがオンであれば、同じファイル名の *.kml、*.prj と world ファイル (フォーマットにより、*.j2w、*.tfw、*.jgw、*.pgw) に格納されます。外部フォーマットのファイルは、同時に保存されたジオリファレンスを使い、他のレイヤと組み合わせると TNT 製品で直接表示することができます。外部フォーマットのスナップショットは (座標情報を使う使わないは別として) レポートや他の目的に使用できます。KML ファイルを選んだ場合は、Google Earth を自動的に起動することもできます ([結果をゲーグルアースで表示します (Show Result in Google Earth immediately after quick-save toggle)] トグルボタンをオンにします)。

スナップショットは表示中の全レイヤを合成した 1 つのラスタとしてキャプチャされます。合成したレイヤ (例えば、ラスタオブジェクトの上に重ねたベクタオブジェクト) を後で分離することはできません。ジオリファレンスを持っていたとしても単なる絵にすぎません。セルサイズはスナップショットを撮ったときの画面の解像度での大きさに変わります。スナップショットの際、そのラスタをフル解像度 (最高精細度、または 1 倍) で表示していればスナップショット画像はもとのラスタと同じになるでしょう。スナップショットの投影法 / 座標参照系はグループの投影法設定で決まります。それは、デフォルトでは "最初のラスタ" または "(ラスタがなければ) 最初のレイヤ" によって設定されます。レイアウトでは、一覧の中のローカルでない座標参照系を持った一番下のグループによって決まります。

スナップショットのフォーマット
RVC - 非圧縮
RVC - DPCM (欠損なし)
RVC - ハフマン符号 (欠損なし)
RVC - JPEG2000 (欠損なし)
RVC - JPEG2000 最高画質
RVC - JPEG2000 ユーザ定義
RVC - JPEG 最高画質
RVC - JPEG ユーザ定義
GeoJP2 - 欠損なし
GeoJP2 - 最高画質
GeoJP2 - ユーザ定義
JP2 - 欠損なし
JP2 - 最高品質
JP2 - ユーザ定義
GeoTIFF - 非圧縮
GeoTIFF - LZW (欠損なし)
GeoTIFF - PackBits (欠損なし)
TIFF - 非圧縮
TIFF - LZW (欠損なし)
TIFF - PackBits (欠損なし)
JPEG - 最高品質
JPEG - ユーザ定義
PNG

スナップショットの際、そのラスタをフル解像度 (最高精細度、または 1 倍) で表示していればスナップショット画像はもとのラスタと同じになるでしょう。スナップショットの投影法 / 座標参照系はグループの投影法設定で決まります。それは、デフォルトでは "最初のラスタ" または "(ラスタがなければ) 最初のレイヤ" によって設定されます。レイアウトでは、一覧の中のローカルでない座標参照系を持った一番下のグループによって決まります。



フォーマットと保存場所は〈表示マネージャ〉ウィンドウの [オプション] から [表示ウィンドウオプション] で変更できます。